

去る者の言葉：雑録

著者	河野，淺士，井上，縫三郎，松尾，勝敏，歳川，満雄，佐伯，玄洞
雑誌名	龍南
巻	2 0 0
ページ	1 6 9 - 1 6 9
発行年	1926-12-25
その他の言語のタイトル	去る者の言葉：雑録
URL	http://hdl.handle.net/2298/8931

去る者の言葉

憂鬱な空が群集に落つる

冬の夜が杜の都に散つた。

冬だ、冬だ、凡てが終る。

× × ×

我等は遂に我等の任を終へねばならぬ。嗣ぐ者よ、意氣と感激に燃えよ。逝く者をして微笑^{ほくそ}しめよ。我等今將に去らんとす……一九二六年！我等が進み來りし多事多端多望なりし一年！おゝ改革、自治、暗黒、黎明――

願れば龍南の思想界亦變轉推移極りなき發展を遂ぐ。而して我等が「龍南」又、諸兄の御努力により先輩の遺志を傷くることなくして、こゝに又我等は諸兄の前に二百號紀念を贈るを得るを喜ぶ。二百――二百！如何に連綿として盡きざる龍南の生活よ。我等はこの號が更に偉大なる飛躍への捨石となるをうるなら望外の喜びである。

新しき天地へ！真理の探求に憧憬する意氣の子よ！正義に邁進する感激の士よ！あらゆる困難を克服して、若き學徒の真理の王國を建設せよ。去るに臨みて、我等は訣別の情禁じ難しと雖も、唯こゝに再び「龍南」の未來を祝福して去る。

× × ×

憂鬱な空が大地に落つる

冬の夜が杜の都に散つた。

冬だ。冬だ。春は近づく。

1926・112・24

去る者の言葉

河野 淺士 井上 縫三郎 松尾 勝敏
歳川 滿雄 佐伯 玄洞

—(192)—